

(別添2)

No.	1
策定年月	令和3年5月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 あわら市産地 (作成主体:あわら市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

あわら市は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約65%を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、麦・大豆・そばの生産を拡大するとともに、補完的に加工用米や高収益作物等の導入を推進していく必要がある。

特に麦・大豆の生産拡大にあたっては、ほとんどが担い手に集積されており、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、大豆では、近年気象災害等で単収が低下していることから、土づくりや排水対策の徹底を図り、単収の安定を実現する。

現在、あわら市においては、水田収益力強化ビジョン、新ふくい農業基本計画等により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している「ファイバースノウ」は、全量が麦飯や麦茶用として、JA福井県を通じてA社に販売している。これまで需要に見合う生産を推進するなかで、もち麦など新たな品種導入の試験や単作大豆やそばへの転換を行ってきた。今後、さらなる生産調整拡大に対して、大麦の需要拡大とともに、単作大豆やそばへの転換を試みていく必要がある。

・大豆については、生産の8割を占める「里のほほえみ」は、JA福井県からJA全農に委託販売され、主に全国の豆腐・豆乳企業に向けて販売されている。しかし、近年、気象災害等で収量が落ち込み、安定供給が達成できていないため、安定した生産技術の確立が必要である。

(2) 生産における現状と課題

大麦・大豆ともに、生産調整の拡大に合わせて作付面積も徐々に拡大している。額縁明渠や弾丸暗渠などで排水対策を徹底しているものの、想定を超える大雪や大雨によってより高度な排水対策が必要となっている。また、作付頻度の増加に伴い地力が低下しているため、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、担い手への農地の集約が急速に進み、1経営体あたりの作業面積が拡大し作業適期の逸失等により、単収低下を引き起こしていることから、スマート農業の導入や機械の高性能化が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大麦	ファイバースノウ	(588) 588	(570) 570	(548) 548	(248) 248	(254) 254	(270) 270	(1,459) 1,459	(1,448) 1,448	(1,480) 1,480
作物計		(588) 588	(570) 570	(548) 548	(248) 248	(254) 254	(270) 270	(1,459) 1,459	(1,448) 1,448	(1,480) 1,480

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	里のほほえみ・エンレイ	(332) 332	(332) 332	(342) 342	(188) 188	(140) 140	(191) 191	(625) 625	(465) 465	(654) 654
作物計		(332) 332	(332) 332	(342) 342	(188) 188	(140) 140	(191) 191	(625) 625	(465) 465	(654) 654

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大麦	ファイバースノウ	586	99.7%	568	99.6%	546	99.6%	
作物計		586	99.7%	568	99.6%	546	99.6%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	里のほほえみ・エンレイ	330	99.4%	330	99.4%	340	99.4%	
作物計		330	99.4%	330	99.4%	340	99.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

県の団地基準面積値を使用

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。